

適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告

【適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及びWGの運営】

本WGは、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催しています。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」です。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進しています。その基本原則は次のとおりです。

○遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上

○世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供

○持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしています。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WGとして検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、2018年度から適正利用・エコツーリズムWGを単独開催しています。

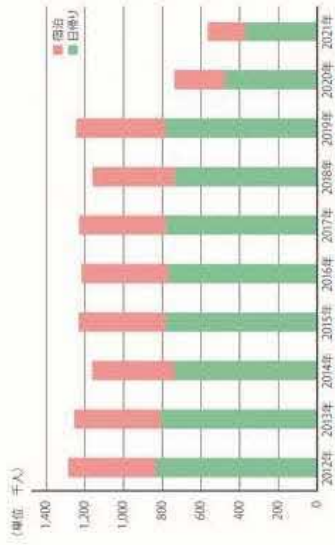
<コロナウイルス感染拡大を受けた知床観光の状況について>

2019年度2月末の冬季流水シーズンより徐々に影響が出はじめ、2020年度以降も影響が続いています。特に2021年度の緊急事態宣言発令時は観光関連サービス業（観光船、ガイド、土産など）の営業を自粛する場合もありましたが、2022年度は両町とも感染防止策を徹底したうえで観光関連サービス業を継続しました。

各町とも補助金等による経済支援や、現状把握に向けた各種調査等を実施しています。今後の感染予防や観光客の受け入れについては、新たな生活様式への変革を前提として、国や道、各業界の方針に基づいて行っていくという共通認識に立って進めています。

知床国立公園の利用状況調査

2021年1月～12月



斜里町観光客入込数

プログラムやアクティビティの利用者数

シャトルバス 乗車人数 (マイカー規制期間)	7,975人 (105%)
知床五湖 ヒクマ活動期 ガイドツアー	6,047人 (177%)
越冬期の 知床五湖 エコツアー	789人 (41%)
知床自然センター MEGASクリーン KINETOKO	1,110人 (91%)
シーカヤック ツアー	546人 (108%)

凡例

- 知床国立公園区域
- 車道
- 登山道など
- 主要山岳

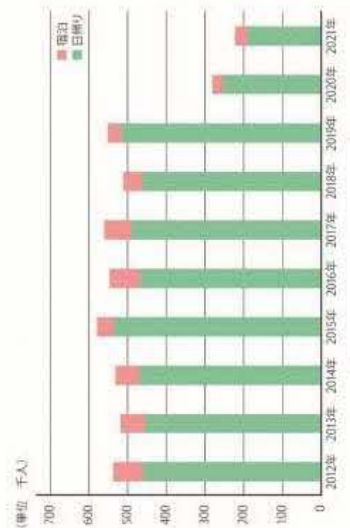
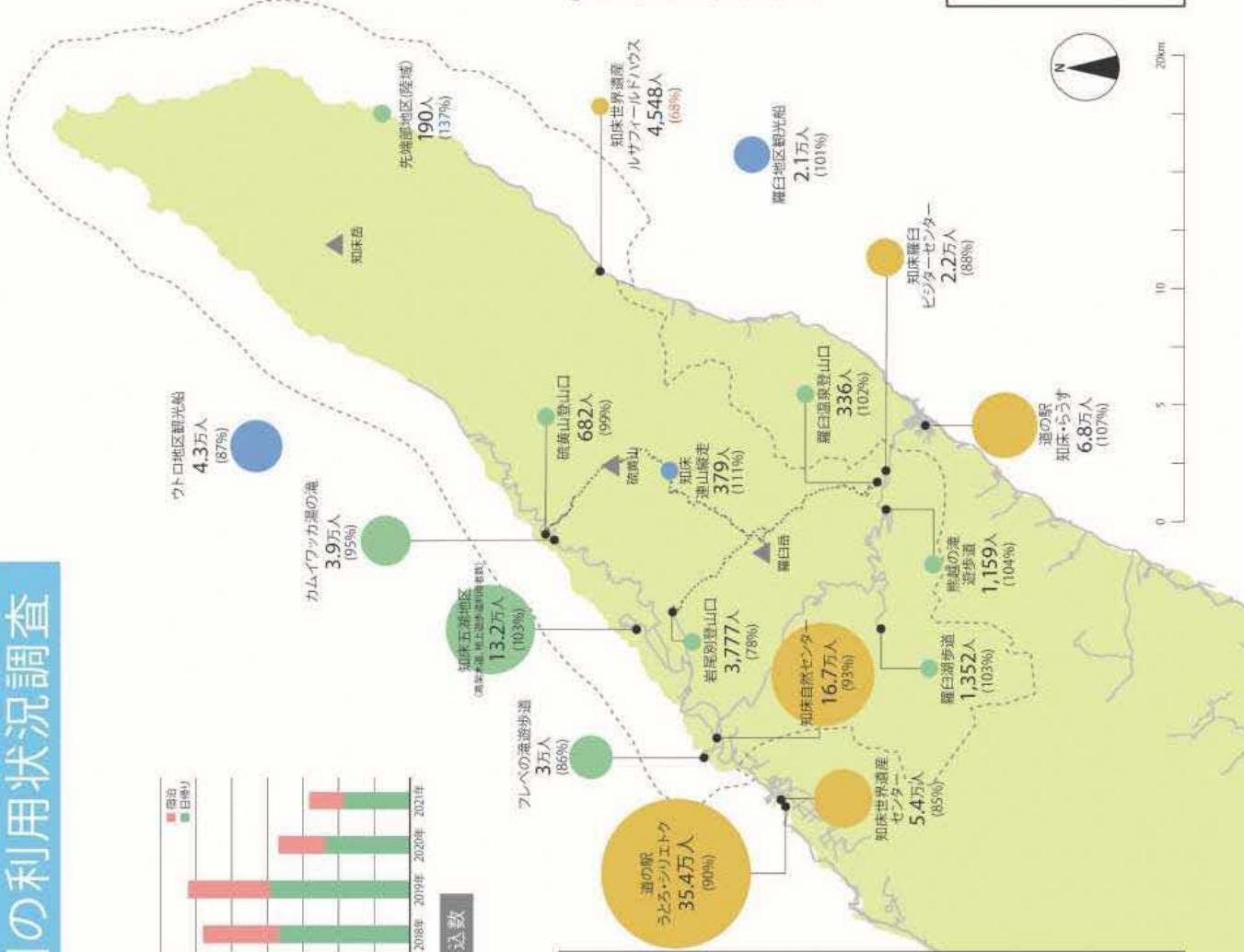
円の色

- 主要施設
- 主要観光地
- プログラムやアクティビティ

円のサイズ

- 100,000人以上
- 10,000人
- 5,000人以下

()内は2020年比を示す
赤字...前年比-30%以上の減少
青字...前年比+30%以上の増加



羅臼町観光客入込数

昨年(2021年)も新型コロナウイルスの甚大な影響を受けた。両町の観光客入込み数は平年のおよそ半数以下に激減し、昨年と比較してもさらに2割程度少ない結果となった。これは、観光の最盛期である8月20日から北海道にまん延等防止重点措置が大きい。インバウンドは引き続きはほぼゼロである。多くの指標で前年実績を下回ったが、「先端部」縦走路「サケマス漁船」など羅臼地区のいくつかの指標は前年を上回った。

1. 令和4年度（2022年度）適正利用・エコツーリズム検討会議の開催概要

・第1回会議 令和4年（2022年）10月27日（木）標津町生涯学習センター

2. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討がなされた1件の状況は以下のとおりです。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙1のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして2016年の検討会議で5年間の試行を合意しましたが、2022年度第1回検討会議において、これまでの総括報告を行ったうえで、事業継続を断念し当該実施部会を解散する旨が決定しました。

3. 個別地域における取り組み状況と課題

①知床五湖における利用調整地区制度の運用

昨年度より継続して、植生保護期（レクチャーのみ）とヒグマ活動期（ガイド同行必須）の2つの制度で運用しています。今期より小ループツアーの事前予約制を導入しました。また、多様なニーズ（高齢者、子供連れ、プライベートツアー等）により対応できる仕組み目指し、小ループ試行枠ツアーを実施。地上遊歩道の再整備について、全区間が完成し、2022年度より供用を開始しています。

今期の地上遊歩道立入認定者数は46,333名（前年比98%）（※閉園後の速報値を反映。）で、コロナ渦前と比較すると7割程度の入込状況です。利用者数の減少に関連し、運営費や実施体制に課題が生じています。また、一湖湖面に広がるスイレン（外来種）の景観への影響について懸念の声があり、今後調査・対応検討予定しています。

②カムイワッカ地区における取り組み

本年度は渋滞緩和を目的に車両規制を伴わない臨時バスを5月と7月に知床自然センター～知床五湖間で運行しました。次いで繁忙期の8月に知床五湖以奥のカムイワッカ地区においてマイカー規制とシャトルバスの運行を10日間のみ実施しました。期間中の乗車人数は3,548名で昨年比65%と減少しました。秋には各種のイベントと連携を図り「知床オータム・バス・デイズ」と称して9月30日～10月2日までの期間でホロベツ地区以奥のマイカー規制とシャトルバス運行を実施しました。また新たにバスの有償化に取り組んでいます。バスの延べ乗車人数は1,780名で昨年比72%に留まりました。

カムイワッカ湯の滝1の滝以奥の再利用を目指す事業についてガイド同行型の試行事業Aと個人利用型の試行事業Bをそれぞれ拡大して実施する予定でしたが、4月の海難事故を踏

まえて見送ることとしました。一方で上記バス・デイズの魅力向上の一環として試行事業 B を 3 日間のみ実施し、85 名が参加しました。

③ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働の保全活動

例年同様、知床ウトロ海域環境保全協議会で企画実施する「海鳥 WEEK」として、知床世界遺産センターでのケイマフリ展示を実施しています。(遊覧船事故の関係から観光船・宿泊施設での海鳥トーク実施は自粛) また、本協議会関係団体の Instagram を活用し、知床遺産センター、知床自然センター、観光船おーろら 3 つのアカウントでのコラボインスタライブを実施しました。知床サステナブルウィーク(地域イベント)に出展し、オリジナル海鳥タンブラー作りが体験できるワークショップを目玉に、海鳥の普及啓発や取組の情報発信を行いました。

④厳冬期の知床五湖エコツアー事業

冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーを実施しています。(2014 年度より継続実施)

2021 年度は、2022 年の 1 月 29 日(土)～3 月 14 日(月)までの 45 日間で実施。外国人や首都圏からの来訪者が限られる中で利用人数は 1,382 名と目標数をわずかに上回る結果を残しました(前年比 175%)。

2022 年度は開催期間を 60 日に延ばして実施する予定ですが、詳細は事業説明会を経て正式決定される予定です。

4. 主な検討事項や今後の予定

○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、引き続き年 2 回実施予定です。
- ・ヒグマ対策連絡会議や国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業については、必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有します。
- ・コロナウイルス感染拡大による影響や防止策等について検討会議で共有し、今後の知床におけるエコツーリズムのあり方を議論する予定です。

○OWG

- ・長期モニタリング計画などに対して科学的助言を得るため、今年度は年 3 回実施予定です。
- ・詳細は別紙のとおりです。

上記 2 会議とも、ネット接続による遠隔参加を含めた開催を進めていきます。